



Be creative !



You don't need to be perfect—just be true to yourself. You have a bright future ahead!

—Angela 先生から、みなさんへ Message—



6月20日(金)、フィリピンにある私たちの姉妹校 Silay Institute 校より、英語科の Angela 先生が来日されました。ちょうど1か月間、本校に滞在し、フィリピンスタディツアーの事前学習だけでなく、希望する全校の皆さんへの英会話レッスンや英語検定二次試験の事前指導などに取り組む予定です。先週一週間は皆さんが期末試験中ゆえ、接する機会があまりありませんでしたが、今週から3週間、生徒の皆さんとともに、いろいろな活動に取り組んでいく予定です。皆さんも部活等で忙しいかもしれませんが、せっかくの機会です。時間をやり繰りして、先生との会話を楽しんでください。

一足早く、先生にインタビューをしてみました。「先生はどんな高校生だったの？ どうして教師という職業を選んだの？ 生徒たちに期待していることは？」Angela 先生はわかりやすい英語で答えてくださいました。最後に皆さんへの熱いメッセージも寄せてくださっています。

Angela 先生、先生にとっても充実した機会となるよう、私たちも頑張ります。

—Interview—

***Was there anything you were passionate about in high school?**

- Yes, I enjoyed spending my time reading Filipino short stories and learning new things in class. I also joined declamation contests, which helped me become more confident in speaking.

***What kind of high school student were you, and what were the fun parts of your high school life?**

- I was a quiet but curious student. I liked to join school clubs and be with my friends. The fun part was spending time with classmates and joining school events.

***Why did you decide to become a teacher?**

- I decided to become a teacher because I wanted to help young people learn and grow. I really enjoy sharing knowledge and making learning fun for students.



*What are the good and difficult things about being a teacher?

- The good part is seeing students improve and become more confident.

The hard part is when students have problems and it's difficult to help everyone at once.

*What kind of abilities do you want Filipino students to develop as people?

- I want them to be kind, strong, and respectful. I also hope they learn to think clearly, solve problems, and never give up.

*What kind of teacher do you want to be in the future?

- In the future I want to be a teacher who listens, understands, and always supports my students. I always want to keep learning so I can be better every day.

*Please send a message to NFUA high school students.

Dear NFU students,

- Always do your best and be proud of who you are. Keep learning, stay kind, and believe in yourself. You don't need to be perfect—just be true to yourself. You have a bright future ahead!



Summer Activities Begin!-夏の取り組みが始まる

★Pre World Youth Meeting(WYM) 6月28日(日本福祉大学・立命館大学主催)



6月28日(土)、日本福祉大学東海キャンパスにて、今年度のWorld Youth Meetingのプレの取り組みが行われました。ここ数年、本校からはグローバル英語コースの生徒のみならず、総合進学コースの生徒も含め、その参



加者が増えていることは大変うれしいことです。今年度は約20名の生徒がこのプレに参加をしました。

この研修で強調されたのは「English as a Foreign Language」を使うアジアの高校生・大学生に伝わるプレゼンテーションを創造し、借り物の言葉ではなく、自分自身の中から生み出された表現を積極的に使おうということでした。WYMの本番は8月4日・5日です。頑張ろう！

★フィリピンスタディツアー事前学習会 7月1日授業後

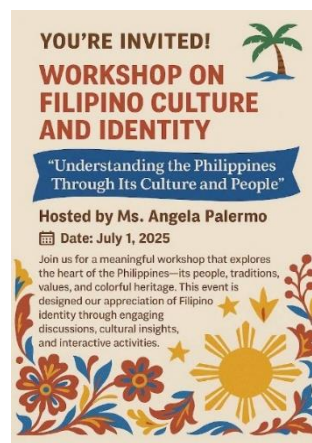
WYMの取り組みと並び、もうひとつ注目したいのはフィリピンスタディツアーです。7月1日、その事前学習が図書室で行われました。最初に、アンジェラ先生より、フィリピンの代表的な食べ物や料理、文化や生活様式の紹介をしてもらいました。その説明の中で印象的だったのは、「あなたがどうしても食べられないものがあるときは丁寧にホストファミリーに伝えればいい。あなたの意はちゃんと尊重されます。」という



先生の言葉でした。フィリピンでは目上の人への尊敬の念を常に忘れません。その思いは個々人の思いを大切にすることにもつながっているようです。フィリピンのお風呂は？トイレ事情は？日本語と英語を使つてのフリートークの時間も

持つことができました。どんな出会いや経験が待っているのか、楽しみだね！

新聞記事から この夏は新聞を読んでみませんか。



「世界の地図が実在の人間の笑い声で鮮やかに彩られた」5月31日中日朝刊より

5月29日、米東部ボストン郊外にあるハーバード大学で卒業式が行われた。「世界各国から学生の皆さんが集まっている。これがあるべき(大学の)姿だ。」とガーバー学長が祝辞で強調すると、会場は大きな歓声と拍手に包まれたという。ハーバード大学を一方的に敵視し、留学生受け入れ資格のはく奪に乗り出したトランプ政権にガーバー学長は明確にくぎを刺した。卒業生代表の一人として演説をした中国出身の女子学生の言葉が印象的である。彼女は、32か国の同級生77人と共に学んだ。その彼女の言葉である。

「世界地図が実在の人間の笑い声で鮮やかに彩られ、国際的な課題が一気に身近になった。」彼女の大学でのこの学びは、彼女の今後の人生を決定づけるものであり、多様性が私たちにもたらすものは何かを明確に教えてくれる。この日、多くの新聞が、ハーバード大学の卒業式の記事を取り上げているが、この彼女の言葉に勝る内容の記事はなかったように感じた。この大学での体験は、彼女にとって、社会を変える原動力となるものとなるであろう。

「図鑑に書いたらいいよ」 6月27日中日夕刊より

私の文章をよく読んでくださる皆さんにとっては、「また、この人のことか」と思われるだろうが、「いやいや、この人のことについて、また新しいことを昨日の夕刊で知ったんですよ。」と伝えたく、再び登場する動物言語学者の鈴木俊貴氏。今回のテーマは「やはり、この人のお母さんは素敵な人だった。」息子が庭に作った巣に住み着いた鳥の言葉を聞き分け、父を巻き込み、その鳥の天敵と日々、闘った母である。

彼が5歳の頃、庭のコガネグモの巣にカブトムシがかかった。彼が観察をしていると、そのカブトムシはぐるぐる巻きにされてクモに食べられてしまう。彼の愛読書の図鑑にはこう書いてあった。「カブトムシは森の王者。どんな虫にも負けません。」「……。これ、食われているよ。」とお母さんに伝えると、「自分の持っている図鑑に書いたらいいよ」。印象的な母の言葉だったと彼は振り返る。観察したことが正しくて、図鑑に書いてあることはひょっとしたら間違っているかもしれない。自然界は図鑑に書かれていないことの方が多いかもしれないし、自分で書き換えてもいいんだと思うと、観察することがもっと楽しくなったと言う。彼の問いの誕生と観察・検証の道のりの出発点でもあった。

お母さんはひょっとしたら忘れてしまっている言葉かもしれないが、5歳の少年の心に大事な気づきをこの一言はもたらす。「鳥たちに教えてもらったことは僕の人生の宝物」と語る鈴木さんであるが、もっと大きな宝物に包まれて、彼が育ったことがわかるエピソードである。

